

ザンビア、シナゾンウェにおける 2007/2008 年雨季の気象観測解析

菅野洋光¹，佐伯田鶴²

¹(独)農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター

²国立環境研究所 地球環境研究センター

2007年9月から、ザンビアのシナゾンウェ州にて気象観測を開始した。以下にここまでの観測・解析結果をとりまとめる。

2007/2008年雨季は12月初旬から3月中旬頃までであったと考えられる。3つの観測サイト（A：低地、B：斜面地、C：高地）では、雨量がそれぞれ異なっており、サイトAとBで多く（A：1600mm、B：1586mm）、Cでは少なかった(1426mm)。なお、ここで示した雨量は、村内に配置した雨量計（A：11地点、B：13地点、C：12地点）の平均値である。

時別の平均雨量をみたところ、AとBでは日変化が大きく、特に夕雨が顕著であった。一方、Cでは日変化が小さく、夕方のピークも認められない。総降水量はCがA、Bよりも150mm以上少ないが、Cの夕雨が無いところがそれらの差に寄与していると考えられる。

これまでの聞き取り調査の結果、調査地域の人々の意識として、高地では低地よりも雨量が多いというものが得られている。しかしながら、今回の観測では逆の結果が得られた。観測がまだ1年分なので確定的なことは言えないが、雨季の期間は、高地の方が気温が低く日射量も少なかったことから、土壌の乾燥速度が低地の方が早く、それが人々の印象として、低地で雨量が少ないということになった可能性が考えられる。

各サイトでは、雨量観測点間の差が大きかった。すなわち、最大雨量観測点と最小雨量観測点の差が、Aでは140mm、Bでは190mm、Cでは176mmである。また、降水分布パターンにも特徴的な分布が見られた。Aでは降水量の多い地点が南西方向に偏在しており、Bでは標高に比例して降水が増加しており、またCでは中心域で降水量が少ない。降水量の季節変化は他の地上気象要素とよく一致していた。気温、風、日射量などの気象要素は3つのサイト間で異なった変化を示している。以上のような季節変化が、シナゾンウェにおける観測対象地域の一般的な気候特性を示しているのか否か、今後も観測を継続することによって明らかにしていきたい。